

## 2019 年度中期研修報告書

文学部・教授

竹内敬子

2019年3月26日より9月25日まで中期研修の機会をいただき、以下のように研修期間を過ごした。

私の中期研修の課題は①「1870～20世紀初頭のウェスト・ヨークシャー地方における労働とジェンダー」、②「イギリス工場法とジェンダー」の単著執筆の準備、③2019年度科学研究費・基礎(B)「近現代における「不自由な」労働者を再考する—18-20世紀の英国・英帝国を中心に」の研究分担者としての調査・研究であった。

①については、Leeds City Libraryをはじめとした、地方図書館で、史料の閲覧、関連図書も閲覧し、ウェスト・ヨークシャー地方の女性たちの伝記的研究を中心的行った。②については、大英図書館を中心に、これまでの研究の補足を行った。③については、同じく大英図書館を中心に資料を閲覧し、工業後のイギリス社会で「自由な行為者」であることが、男性労働者の尊厳の中心的な価値として確立する過程を考察した。

なお、国外での研修中、特にリーズ滞在中は、研究テーマに関連する展示を見たり、セミナーに参加する機会も数多く得て、多くの刺激や示唆を受けた。

日程については以下に示す。

(1) 2019年3月25日-5月31日:国内

主に成蹊大学にて、①1870年代～20世紀初頭のウェスト・ヨークシャー地方における労働とジェンダーに関する文献研究、②「工場法とジェンダー」のこれまでの自分の研究成果の整理、③「1870年代～20世紀初頭のウェスト・ヨークシャー地方における労働とジェンダーに関する文献研究、④2019年度科学研究費・基礎(B)「近現代における「不自由な」労働者を再考する」に関する文献研究を行った。

必要に応じ、国会図書館などの外部の図書館を利用した。

(2) 2019年6月1日～8月31日:国外

6月1日:移動日:東京→ロンドン

6月2日～6月9日:ロンドン

主に British Library で、The Nine Hours' Movement. A plea for a new Factory Act. By a Factory Hand. Reprinted など、③に関する資史料の収集・閲覧を行った。

London School of Economics の"Women's Profession"の展示の見学。

6月10日：移動日：ロンドン→リーズ

6月11日～8月15日：リーズ

主に①に関する研究を行った。

Leeds City Library 内の Family and Local History Library, West Yorkshire Archive Service などで、ウェスト・ヨークシャー地域の女性の自伝や伝記、The National Union of Women Workers の Leeds Branch の史料などを閲覧。

Leeds 郊外の Morley, Butly などの小規模な図書館でも史料を閲覧。

Feminist Public Sculpture(Leeds Arts University)、Feminist Archive North Display (Leeds City Museum)、19th-century Leeds Radicalism(Leeds Central Library)、Peterloo 2019( People's History Museum, Manchester)など、私の研究テーマに関わる展示を見学。

Leeds City Library で開催された"Electric Women"など、私の研究テーマに関わるセミナーに参加。

6月26～30日はロンドンに国内出張。Chelsea Pensioner House (イギリスの有名な老人ホーム) の訪問活動に参加出来る事になり、6月27日の打ち合わせと29日の訪問のため。ただし、先方の都合で、訪問日が延期になり、私は打ち合わせだけの参加となり、実際の訪問には参加出来なかった。が、イギリスの民間のチャリティについて知る良い機会となった。28日、29日は、大英図書館で資・史料の閲覧。26日、30日は移動日)

8月16日：移動日：リーズ→ロンドン

8月17日～30日：ロンドン

主にブリティッシュ・ライブラリーで、①のテーマに関し、リーズで閲覧した史料を時代全体の中に位置付ける作業、②③についても引き続き資・史料を閲覧。

8月31日：移動日：ロンドン→東京

(3) 2019年9月1日～24日：国内

①～③について、イギリスで収集してきた資史料を整理し、読み込む作業を進めた。③については、10月6日の研究報告会での報告準備も進めた。